

花瓶

気がついたら押し売りされていた  
装飾の美しさが捨てる判断を鈍らせる  
結局は利益のために作られたものなのに  
高尚な意図があるものとされてしまう  
ただそこにあるだけで  
場所を取り、埃を溜め、  
藁を掴む手に幸福の烙印を押される  
こんなもの、と投げ出そうとすれば  
無責任な網に絡まって掬い上げられる  
花を一つ挿してくれたたつていいのに

空っぽのままなのが嫌になつて  
花屋の端っこのガーベラを買う  
ただ情性で挿して、枯れれば捨てる  
褒める奴なんかいない  
下手くそだと罵られもしない  
『オリジナリティ』の一言で片づけられる  
お前にもあるような物言いだな  
目も当てられないのは分かつてる

雨和七瀬

だからってこれ見よがしに鼻をつまむな  
お前の分はママが世話してくせに  
そのくせ嫌いな色なら嫌がっただろうに  
青臭ければ誰も寄って来なくなるんだらうけど  
一度で良いから水を分けて欲しくて  
花の香りをちゃんと恨めずにいる

あー、やっぱり花の世話も埃の掃除も面倒だ  
誰かがうっかりで割ってくれないかな  
悪者扱いされたそいつに片づけて欲しいな